古典

12 漢文・漢詩の基本

学習目標
- 漢文の種類や「訓読」「返り点」といった用語を覚え、使い方を理解しよう。
- 問題を解くことで、漢文・漢詩の基本知識を身につけよう。

要点のまとめ

1 漢文の種類

白文…漢字のみで書かれた文。原文。
例 仁者必有勇。

訓読文…白文に訓点（送り仮名・返り点・句読点などの符号）を付け、日本語の文章として読めるようにした文。
例 仁 者 必 有レ 勇。（ハ ズ リ）

書き下し文…漢文を訓読し、漢字仮名交じりの文に書き表したもの。
例 仁者は必ず勇有り。

2 訓読法

訓点

送り仮名	助詞・助動詞や用言の活用語尾などを、漢字の右下に片仮名で小さく示したもの。歴史的仮名遣いを用いる。
返り点	漢字の左下に補う、読む順序を示した符号。
句読点	句や文の切れ目を表す読点（、）や句点（。）。

返り点

レ点	すぐ下の一字から、上に返って読む。 例 入レ（リテ）海 流ル（ニ）。 2 1 3 〔読む順序〕 〔書き下し文〕海に入りて流る。
一・二点	二字以上を隔てて、上に返って読む。 例 不二（ず）亦（また）説一（よろこバざ）乎（や）。 3 1 2 4 〔読む順序〕 〔書き下し文〕また説ばしからずや。
上・下点	一・二点の付いている部分をはさんで、上に返って読む。 例 楚（そ）人（ひとニ）有下（リ）鬻（ひさグ）二盾（トヲ）与レ矛（ほこヲ）者。上 1 2 8 6 3 5 4 7 〔読む順序〕 〔書き下し文〕楚人に盾と矛とを鬻ぐ者有り。

※二つの返り点が一つになった「レ点」「上点」などもある。
※書き下し文にするときは、助詞・助動詞に当たる漢字は平仮名にする。

3 漢詩の形式

一句の字数と全体の句数によって次のように分けられる。

絶句（ぜっく）	五言絶句（ごごん）：一句が五字で、四句から成る。 七言絶句（しちごん）：一句が七字で、四句から成る。
律詩（りっし）	五言律詩：一句が五字で、八句から成る。 七言律詩：一句が七字で、八句から成る。

絶句の構成
- 起句（第一句）…うたい起こす。
- 承句（第二句）…「起句」を承（う）けてさらに展開させる。
- 転句（第三句）…場面が転換する。
- 結句（第四句）…全体を締めくくり結ぶ。

確認問題

1 漢文の知識　次の各文の説明に合うものをそれぞれ後から一つずつ選び、記号で答えなさい。

① 漢字のみで書かれた文。　□

② 漢文を訓読し、漢字仮名交じりの文に書き表したもの。　□

③ 白文に訓点を付けて、日本語の文章として読めるようにした文。　□

ア 白文　イ 訓読文　ウ 書き下し文

ポイント 外国語である漢文を日本語として読むために、訓点を付けたり書き下したりした。

2 返り点　例にならって、返り点にしたがって読む順序を□の中に算用数字で答えなさい。

例 2レ 1

① 二 □ 一 □

② □ レ □ □

③ □ 二 □ 一 □

④ □ レ □ 二 □ 一 □

ポイント ④はまずレ点に注目し、次に一・二点を確認する。

---

3 書き下し文　次の各文を書き下し文にしなさい。

① 彼 悪 知 レ 之。（いづくンゾ ランこれヲ）

□

② 伯 楽 不 二 常 有 一。（はく らくハ ず ニハ ラ）

□

ポイント ②の「不」は助動詞なので、書き下すときは平仮名にする。

4 返り点　次の書き下し文の読み方になるように訓点を付けたものを後から一つ選び、記号で答えなさい。

安んぞ魚の楽しむを知らん。（いづく うを）

ア 安 知 魚 レ 之 楽。（ンゾ ラン の シムヲ）

イ 安 知 レ 魚 之 楽。（ンゾ ラン シムヲ）

ウ 安 知 二 魚 一 之 楽。（ンゾ ラン シムヲ）

エ 安 知 二 魚 一 之 楽。（ンゾ ラン シムヲ）

□

ポイント 一点の付いた字を読んだ直後に二点の付いた字を読むことに注意。

5 形式　次の漢詩の形式を、漢字四字で書きなさい。

何処秋風至（いづレノところヨリ ル）

蕭蕭送雁群（せうせうシテ ルがん ぐんヲ）

朝来入庭樹（てう らい リ ニ）

孤客最先聞（こ かく モ ニ ク）

〈劉禹錫「秋風引」より〉（りゅううしゃく しゅうふういん）

□

ポイント 一句が五字で、四句から成る詩である。